

釜石市立 鉄の歴史館

釜石市立鉄の歴史館 館長 菊池 準

『近代製鉄発祥の地 釜石』

1 はじめに

安政4年(1857年)に南部藩士大島高任(1826~1901年)が、釜石の地において日本で初めての洋式高炉を築造し、鉄鉱石を連続的に製錬することに成功しました。このことは、日本の近代鉄鋼業の幕開けを告げる画期的な出来事であったことから、高任が初出鉄に成功した12月1日が「鉄の記念日」とされており。

このような近代製鉄の歴史と大島高任の業績を永く後世に伝え残そうと、昭和60年(1985年)7月、市立鉄の歴史館を建設しました。また、平成6年(1994年)4月には施設を拡張してさらに内容の充実を図っております。

館内には約700点の資料のほかに、コンピューターやレーザー光線による最新の映像設備を使って視覚に訴え、楽しみながら釜石の鉄産業の歴史や鉄に関する知識が得られるような工夫などもしております。



鉄の歴史館

2 施設の概要

敷地面積 5,820㎡(約1,760坪)に、鉄筋コンクリート一部鉄骨造り4階建ての建物で、延床面積は2,530㎡(うち展示面積971㎡)、総事業費は約14億円となっております。

3 展示ゾーン及び主な展示品

展示の構成は、次の8つのゾーンからなっております。

(1) 総合演出シアター(1階)

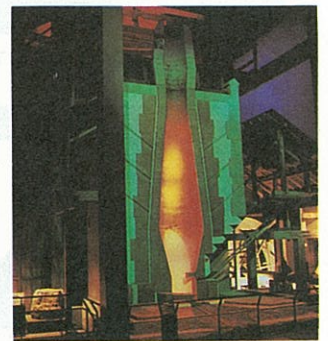
大島高任によって築造された洋式高炉のうち、唯一市内橋野町青ノ木に残っている遺跡(昭和32年6月、国の文化財史跡指定を受けている)から三番高炉を原寸大(炉の高さ約7m、屋上まで約14m)に再現設置し、音と光と映像によって当時の鉄づくりの様子を紹介しております。

(2) 鉄文化の黎明ゾーン(1階)

鉄文化の発生から、海を渡って日本、やがて東北へと伝わってきた鉄の歴史を、絵やグラフィックによって紹介しております。



大島高任



1階 総合演出シアター

(3) 近代製鉄の発進ゾーン（1階）

大島高任が日本初の洋式高炉を完成するまでの過程や、釜石地域で10基もの高炉を築造した業績など、高任の人物像とともに紹介しております。

中でも、橋野高炉の20分の1の模型に最新の立体映像を組み合わせて高炉操業の様子を紹介する「ファンタビュー」、また、県文化財指定の「橋野高炉絵巻」を分かりやすく解説して2台のモニターTVに組み入れ、自由に検索できる装置も設置してあります。

(4) 製鉄産業と釜石ゾーン（2階）

官営製鉄から民営に移り、隆盛を遂げてきた釜石の鉄鋼産業の近現代や、田中長兵衛、横山久太郎、高橋亦助など、鉄にかかわった先駆的な先人を取り上げています。

(5) アンモナイトの壁（3、4階）

高さ、12m、幅16mのアンモナイトの壁レプリカ。フランス・ディーニュ市で発掘された1億9,500万年前のアンモナイトの化石群は迫力に満ち、大変見応えがあります。

(6) 心の中の鉄ゾーン（1階）

鉄にまつわる知恵、ことわざ、人と鉄の関係、宗教など、鉄についての興味深いゾーンです。

(7) 鉄と豊かなくらしのゾーン（1階）

生活に役立ち、文明の最先端を担ってきた鉄の道具や各種の製品を展示。また、鉄についてのQ & Aをパソコン装置で楽しく学べるコーナーもあります。

(8) 鉄と遊ぶゾーン（1階）

なつかしいブリキのおもちゃや鉄の楽器など、手にとって自由に遊ぶことができます。

4. その他のコーナー

館の1階及び3階にラウンジを配置、また、4階には展望テラスを設けてあり、ここでリアス式海岸で知られる陸中海岸国立公園の一角、雄大絶景の釜石湾を一望できます。また、館の外には、明治13年（1880年）官営製鉄時代に布設された鉄道を走った機関車も、展示しております。

■利用案内

開館時間 午前9時～午後5時

休館日 毎月末日（当日が日曜日に当たるときは、翌日）及び12月28日～12月31日

入館料	区分	個人	20人以上の団体
	小中学生	150円	1人につき 100円
	高校生	300円	1人につき 200円
	一般	500円	1人につき 400円

駐車場 大型バス10台・普通車 100台（無料）

■交通案内

JR釜石線、三陸鉄道南リアス線釜石駅より 3.5km 車で10分、バスで11分

（バスは釜石駅より10～30分毎に運行、観音入口下車、徒歩3分）

